

未来への展望－挑戦を迎え、限界を超える

「2つの“5”目標」の達成

2006年売上げNT\$5,000億元、就業人員数50,000人の達成を目標とする。

根付くオプトエレクトロニクス産業の発展

FPD設備製造統合センターの企画推進によって、園区内進駐メーカー奇美電子(CMO)、瀚宇彩晶(HannStar Display)面板工場、優貝克(ULVAC Taiwan Manufacturing)、さらに台湾應薄(Applied Films Taiwan, AFC)といった国際大手メーカーとの協力を実現することで、FPD設備の国産化へと向けた活動を推進し、政府目標である2008年FPD自国生産率50%へ向けて邁進する。

迅速に高雄園区のオプトエレクトロニクス産業の集約、奇美電子(CMO)の2006年4月の高雄園区進駐に合わせて・形成を行い、次世代TFT-LCD工場の建設を進めていく。

バイオテクノロジー産業圏の形成

引き続き高雄園区バイオ医療技術器材産業の誘致と広報に努める。台南園区と高雄バイオテクノロジー園区との協力によるシナジー効果により、南台湾バイオテクノロジー産業圏の完成を目指していく。

高雄バイオテクノロジー園区の開発企画を推進し、南部バイオテクノロジー研究開発能力の向上を図る。

高雄園区電信産業発展にむけた増強

電信技術センターと協力し、相互実験室などを設置する。

無線ラン模擬ネットワークを構築する。

工研院南部分院と協力して「家庭マルチメディア設置測定実験室」を設置する。

産官学の研究資源を統合と人材育成の促進

2006年8月開校に向けて、国立南科国際実験高等学校の設置を進める。

2006年7月より、高雄園區産官学革新センターの設置に向けて業務開始。

2006年1,600人以上を目指して、台南と高雄園區技術人材育成を継続する。

国科会科学工業園區人材育成補助計画、革新技術開発発展奨励、トップ管理理学講座や討論会等のイベントを開催する。

国際舞台への邁進

アメリカや日本に赴いての企業誘致を初めとして、海外企業誘致範囲をヨーロッパにまで拡大することで、南科の国際的な知名度の向上を図る。

基礎工事建設の強化

高速鉄道振動軽減工事の完成。

高雄園區の建設工事の加速化。

台南県政府に協力しインターチェンジ道路改善計画を交通部に提出し、園区内外の交通の利便性を高めていく。

行政サービス区の地下駐車場工事を完成させる。自家用自動四輪車や自動二輪車を合わせて700台の駐車スペースの提供。

生産環境の更なる向上

園区内の安全協力計画の強化。

無線ブロードバンド環境計画と園区内eネット通信システムの設置推進。

ビジネスサービスと生活機能の更なる向上

2006年1月保全警備分隊高雄園區に進駐。

2006年2月運動公園の室外ソフトボール場1面、テニスコート2面とバスケットボールコート3面の使用開放を開始。

コミュニティーセンター、健康生活館の建設は、それぞれ2005年8月、同年10月に完工。

2006年11月行政サービスセンター1階総理大宴会場が営業を開始。

2006年6つの工商サービス業者の台南園區進駐決定に伴い、高雄園區では台湾銀行、第一銀行、合作金庫の3銀行が新規に営業開始。

関税、運輸等各種生活機能に関わる施設の高雄園區への進駐。

テクノロジーと人文芸術の融合

継続して「台湾史前文化博物館－南科分館」の設置に向けた努力をおこなう。

園區公共芸術設置計画を引き続き推進する。